

「秋の交通安全フェア in 北九州」で交通安全啓発

～福岡県警察と反射材の着用や飲酒運転撲滅等に関し、街頭活動で呼びかけ～

日本損害保険協会九州・沖縄支部委員会（委員長：千葉 岳央 三井住友海上火災保険株式会社 常務執行役員）では、9 月 19 日（金）にＪＲ小倉駅で開催された、「秋の交通安全フェア in 北九州」に参加しました。

交通安全フェアでは、福岡県警察本部 交通部 藤木 信司 部長から、「今年は、交通事故件数、交通事故死亡者数ともに減少しているが、55 名の方が亡くなっている。夕暮れが早まるこれからの時期、反射材を着用するなどし、身を守ってほしい。また、飲酒運転に関しては、しないことはもちろん、見かけた際は 110 番通報してほしい。」との挨拶がありました。フェア内で実施された反射材寄贈式では、当委員会の吉村 康宏 委員長代理（三井住友海上火災保険株式会社 理事福岡支店長）から、園児の皆さまに反射材を渡しました。

式典終了後、福岡県警察や福岡交通安全協会等とともに、駅利用者にチラシ等を配布し、「反射材着用の重要性」や「飲酒運転撲滅」を中心に、交通安全を直接呼びかけました。

九州・沖縄支部委員会では、今後も福岡県警察や関係機関と連携し、交通事故防止の啓発等を通じて、地域の安全・安心の向上に資する活動を実施して参ります。



藤木部長からの挨拶



反射材寄贈の様子



街頭活動の様子



配布した啓発物